2026年11月6日

2027年3月期 中間連結決算ハイライト

阪和興業株式会社

（単位：億円　億円未満切捨て）

2027年3月期 中間決算の概要

・本年度中間決算は、非鉄金属や原油などの商品価格が高水準に推移したことにより、売上高は前年同期比15%増の１兆4,769億円となりました。利益面では、主にエネルギー・生活資材事業やリサイクルメタル事業の利益率が改善したことなどにより、営業利益は前年同期比33%増の368億円に、経常利益は前年同期比50%増の357億円に、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比37%増の230億円となりました。
・年間配当は66円（中間配当33円、期末配当33円）を予定しております。
・当社は2026年４月１日付で普通株式１株につき５株の割合で株式分割を行っております。前期以前の数値については、当該株式分割後の株式数を基準とした金額を記載しております。

経営成績	前中間期（累計）	当中間期（累計）	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
売上高	**12,791**	**14,769**	**1,977**	**15%**
売上総利益	**675**	**826**	**151**	**22%**
販管費	398	458	60	15%
営業利益	**277**	**368**	**90**	**33%**
営業外収益	43	58	15	35%
営業外費用	82	69	△12	△16%
経常利益	**238**	**357**	**118**	**50%**
特別利益	1	—	△1	—
特別損失	1	2	0	15%
税引前中間純利益	**237**	**355**	**117**	**49%**
法人税等	76	121	44	58%
中間純利益	**160**	**233**	**72**	**45%**
親会社株主帰属分	167	230	62	37%
非支配株主帰属分	△6	3	9	—
EPS	83.58円	119.15円	35.57円	43%
中間包括利益	**149**	**302**	**153**	**102%**

主な要因

（売上高）
非鉄金属や原油などの商品価格が高水準に推移したことにより、前年同期比15%増の１兆4,769億円となりました。

（販管費）
前年同期比で60億円（新規連結子会社の影響額は16億円）の増加でした。その内、人件費は26億円（新規連結子会社の影響額は９億円）の増加でした。

（営業外損益）
営業外収益は15億円増加、営業外費用は12億円減少しました。
経常利益に対する主な影響は以下の通りです。
持分法投資利益　：前年同期比で41億円の増加
支払利息　：前年同期比で４億円の増加
為替差損　：前年同期比で２億円の増加

（特別利益）
投資有価証券売却益　：前年同期比で１億円の減少

（特別損失）
投資有価証券売却損　：前年同期比で１億円の減少
投資有価証券評価損　：当期において２億円の発生

財政状態	前期末	当中間期	前期比 増減	前期比 増減率
総資産	**12,126**	**13,022**	**895**	**7%**
（流動資産）	9,287	9,688	401	4%
（固定資産）	2,839	3,334	494	17%
負債	**7,797**	**8,461**	**664**	**9%**
（グロス有利子負債）	3,570	4,272	701	20%
（ネット有利子負債）	2,714	3,529	815	30%
NetDER	0.6/0.5*倍	0.8/0.7*倍	0.2倍	—
純資産	**4,329**	**4,560**	**231**	**5%**
（株主資本）	3,602	3,721	119	3%
（その他の包括利益累計額）	672	745	73	11%
（非支配株主持分）	54	93	39	71%
BPS	2,197.63円	2,329.18円	131.55円	6%
自己資本	4,274	4,467	192	5%
自己資本比率	35.3/37.3*%	34.3/36.2*%	△1.0pt	—

主な要因

（総資産）
棚卸資産や売上債権の増加などにより、前期末比７%増となりました。

（負債）
短期借入金や社債の増加などにより、前期末比９%増となりました。
有利子負債は20%増加し、Net DERは0.8倍（*0.7倍）となりました。

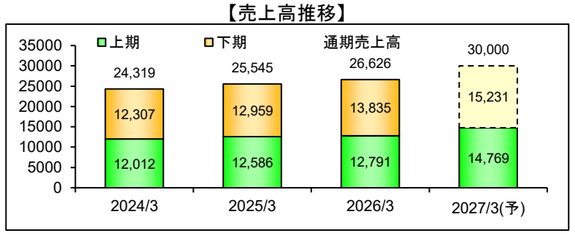
（純資産）
親会社株主に帰属する中間純利益からの利益剰余金の積み上がりや為替換算調整勘定の変動などにより、前期末比５%増となりました。自己資本比率は、前期末比1.0ポイント減少の34.3%（*36.2%）となりました。
（*ハイブリッドローン考慮後のNet DER及び自己資本比率）

キャッシュ・フロー	前中間期（累計）	当中間期（累計）	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
営業活動によるCF	390	△159	△550	—
投資活動によるCF	△30	△487	△457	—
財務活動によるCF	△281	518	799	—
現金及び現金同等物	779	740	△38	△5%

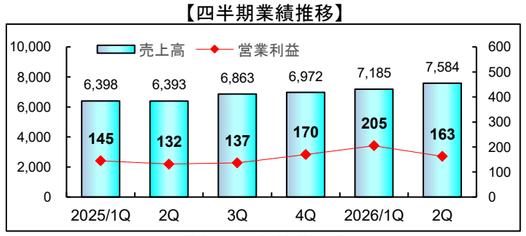
主な要因

（営業CF）
仕入債務の減少や棚卸資産の増加によるもの
（投資CF）
連結範囲の変更を伴う子会社持分や有形固定資産の取得によるもの
（財務CF）
短期借入れや社債の発行によるもの

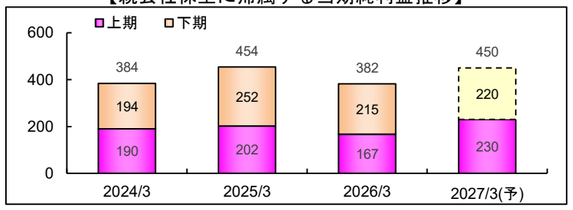
【売上高推移】



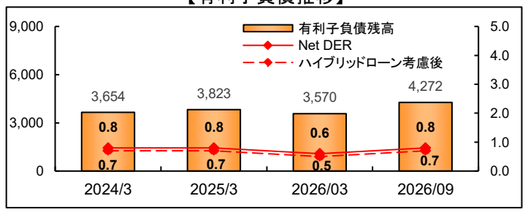
【四半期業績推移】



【親会社株主に帰属する当期純利益推移】



【有利子負債推移】



セグメントの状況	売上高 前中間期	売上高 当中間期	売上高 増減率	セグメント損益(経常損益) 前中間期	セグメント損益(経常損益) 当中間期	セグメント損益(経常損益) 増減率
鉄鋼	5,406	5,521	2%	175	165	△6%
プライマリーメタル	1,090	1,222	12%	△12	18	—
リサイクルメタル	1,274	1,768	39%	2	46	—
食品	715	801	12%	18	18	△2%
エネルギー・生活資材	1,859	2,408	30%	39	86	118%
海外販売子会社	2,453	3,134	28%	27	31	15%
報告セグメント計	12,799	14,856	16%	251	366	46%
その他	631	672	6%	10	8	△16%
合計	**13,431**	**15,529**	**16%**	**261**	**375**	**43%**
調整額	△ 640	△ 759	—	△ 23	△ 17	—
PL計上額	**12,791**	**14,769**	**15%**	**238**	**357**	**50%**

主な要因

（鉄鋼）
鋼材取引が拡大したことや、新規連結子会社の業績が寄与したことなどが収益を押し上げました。一方、大型工事物件の進捗が減少したことなどが利益を押し下げました。
（プライマリーメタル）
銅価格が前年同期比で上昇したことなどが収益を押し上げました。また、SAMANCOR CHROME HOLDINGS PROPRIETARY LTD.からの持分法による投資損益が黒字に転じたことが利益を押し上げました。
（リサイクルメタル）
アルミやマイナーメタルなどの主要取扱商材の相場が高水準で推移したことや、これら商材の需給環境が変化する中でも安定的な取引数量を確保したことなどが収益・利益を押し上げました。
（食品）
外食産業向け販売が好調に推移したことや新規連結子会社の業績が寄与したことなどが収益を押し上げました。一方、主にサケの取扱数量が減少したことなどが利益を押し下げました。
（エネルギー・生活資材）
原油価格が高値で推移したことや、需給環境が不安定な中においても一部化成品の取扱数量を維持したことなどが収益・利益を押し上げました。
（海外販売子会社）
東南アジアで鋼材や非鉄金属原料の販売数量が増加したことなどが収益・利益を押し上げました。

*前第３四半期連結会計期間より、当社から連結子会社への株式譲渡による組織構造の変更に伴い、従来「鉄鋼事業」に区分しておりましたCOSMO STEEL HOLDINGS PTE. LTD.を「海外販売子会社」に変更しております。
なお、前年同期比較につきましては、変更後の区分方法に基づき行っております。

トピックス

6月　・組織再編に伴い、完全子会社であるHKGトレーディング株式会社を分割会社とする会社分割を実施。

8月　・株式会社中山製鋼所と資本業務提携契約を締結。

・米国ASSOCIATED STEEL GROUP, LLC.の持分取得（連結子会社化）。

今期の見通し	前期実績	今期業績予想	対前期増減率
売上高	26,626	30,000	13%
営業利益	584	700	20%
経常利益	522	650	24%
親会社株主に帰属する当期純利益	382	450	18%

配当の状況	前々期実績	前期実績	当期予想
中間期	21.00円	25.00円	33.00円
期末	24.00円	33.00円	33.00円
年間配当	45.00円	58.00円	66.00円
DOE*	3.0%	3.4%	3.6%

＊DOE（株主資本配当率）＝配当総額÷期首株主資本